

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	36701389
法人名	医療法人 鴻志会
事業所名	グループホーム サムデイ
所在地	徳島県徳島市川内町平石若松95 (電話) 088-666-3151

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年8月7日

【情報提供票より】(平成20年 7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 1月 6日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算 1F 7人, 2F 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	理美容代 実費, おむつ代 実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	220 円	昼食 340 円
	夕食	340 円	おやつ - 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大塚外科内科
---------	--------

徳島県 グループホームサムデイ 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は母体病院近くの田園地帯に建てられており、どの部屋も日当たりが良く窓からは緑の風景が眺められる。運営者と管理者、全職員は毎月2回カンファレンスを開催して関係者間のコミュニケーションを図るとともに、サービスの質の向上に取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりが「明るく楽しく安らぎと幸せを実感」できるよう努めている。看護師を2名配置して毎朝利用者の健康状態を協力医に報告したり、また2週間に1回の訪問診療があるなど協力医療機関との連携による健康管理に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題は①運営推進会議の開催、②市町村との連携、③介護計画サービス内容の具体的表現、④災害対策(地域との連携)であった。③については改善されていたが、①、②、④については改善されていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義を理解し、全職員が集まるカンファレンスで意見を出し合い管理者が集約し作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は平成20年2月の前回評価以降、1回開催されている。会議は利用者家族、民生委員、運営者、職員が参加し、外部評価結果の報告や年間行事計画の検討、家族からの質疑などが話し合われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時に意見を聞いたり、玄関への意見箱の設置や家族が参加する行事などのアンケート実施など工夫している。出された意見は運営に反映させるよう努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のボランティアによる大正琴の演奏を聞かせてもらったり、近くの保育園の劇や踊りを見せてもらうなどの機会がある。近くの農家からお米や野菜の差し入れがあったり、散歩の途中でペットを飼っている家に立ち寄り、世間話をするなど地域と日常的に交流している。また夏祭りの案内をするなど地域との付き合いを広げていけるよう努めている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくり、玄関に掲示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月2回の職員カンファレンスで理念を確認しあい、日々の実践に活かせるよう努めている		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアによる大正琴の演奏を聞かせてもらったり、近くの保育園児の劇や踊りを見せてもらうなどの機会がある。近くの農家からお米や野菜の差し入れがあったり、散歩の途中でペットを飼っている家に立ち寄りたり、世間話をするなど地域と日常的に交流している。また夏祭りの案内をするなど地域との付き合いを広げていけるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を理解し、全職員が集まるカンファレンスで意見を出し合い管理者が集約し作成している。前回の外部評価の課題には改善に向けて前向きに取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者家族、民生委員、運営者、職員が参加し、外部評価結果の報告や年間行事計画の検討、家族からの質疑などが話し合われている。しかし平成20年度2月の前回評価以降の開催が1回であり、市町村職員または地域包括支援センター職員が参加していない。	○	運営推進会議は2か月に1回開催し、市町村職員または地域包括支援センター職員が参加されるよう取り組まれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	要介護認定申請などの手続きで市役所を訪問することがある。しかし用件のみで終わってしまい、取り組みに対する相談や話し合いが行われていない。	○	市町村窓口を訪問する機会を利用して情報や意見の交換を行うなど、サービスの質の向上に向けた取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料支払いのための家族来訪時に担当者が一人ひとりの状況報告を書面で行っている。金銭管理についてもその際に領収書を渡している。職員の異動については随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見を聞いたり、玄関への意見箱の設置や家族が参加する行事などでのアンケート実施など工夫している。出された意見は運営に反映させるよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間での異動はない。またユニット間での異動も最小限にとどめている。離職などのやむを得ない場合には全員でカバーし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画にそって実施されており、外部研修はそのつど希望者を募り、勤務調整によって参加できる体制がある。外部研修参加者は報告書を提出するとともに、カンファレンス開催時に全職員に伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して研修時などに交流している。また馴染みのある事業所を見学したり情報交換を行うなどして親密な関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「働きに行く」、「病気が治るまで入院する」と、理解している利用者もおられ、本人がその人なりに納得して毎日を過ごせるよう、家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入浴時にいつも敗戦後の外地での辛かったことを思いだし、話をしながら涙する利用者と悲しみを共有したり、調理が得意な人から教わることも多くともに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントはセンター方式を利用して一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握している。また態度や表情などからもその時々気持ちを推し量っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に担当職員が本人や家族などの希望を把握し、カンファレンスで意見交換を行い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに定期的な見直しを行っている。また状態変化時などには随時見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用して看護師を2名配置し、毎朝利用者の健康状態を協力医に報告したり、また2週間に1回の訪問診療があるなど協力医療機関との連携による健康管理に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する専門医(整形外科・眼科・耳鼻科・歯科など)へ受診できるよう支援している。また受診についても家族と相談しながら送迎に付き添うなどの支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では対応できる範囲の基準を明示している。また事業所としての方針を機会あるごとに伝え、関係者間で話し合い全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導などの場面では言葉かけにも気をつけるなど、他の方に気づかれないような対応をしている。個人情報保護については何度も研修して重要性を認識し、記録等を適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間をずらしたり利用者の希望時に外出するなど、一人ひとりの過ごし方を大切にしてその人らしく過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	少しずつ精米して美味しいご飯が食べられるように精米機を設置している。食材の買い物やテーブル拭き、お茶出し、片付けなど利用者にしてできることを手伝ってもらっている。また一人ひとり食べやすい形態の食事を準備し、和やかに食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が好む時間帯に入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる人にも毎回声かけをしながら入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的に家庭菜園の水やりや庭木を剪定したり、カラオケで歌を唄うなどしている。利用者の誕生月には好みの食事やケーキを作ったり記念撮影をするなど、楽しい行事を実施している。また観光バスを利用して家族を含めた遠出などのイベントなども実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や近くの神社へのお参りなど、外に出たがらない利用者にも気長にお誘いし、一緒に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解して鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者の出入りが察知しやすい環境をつくり、安全に配慮しつつ自由に出入りができるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者とともに年に2回避難訓練を実施している。しかし地域の協力が得られるような働きかけができていない。	○	運営推進会議などを活用し、地域の協力が得られるような働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士から助言を得て作っている。食事・水分摂取量は毎回記録に残し、月1回の体重測定と合わせて医師が専門的立場から判断し、必要な支援を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂はゆったりした広さがありテーブルやソファが置かれ、畳のスペースもあり思い思いに過ごせるようになっている。テーブルの上には観葉植物や手芸品などが置かれ、壁には利用者が楽しそうな表情で写る行事の写真が飾られている。また中庭の花や植木などが見渡せ、居心地のよい空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で持ち込んだベッドや好みの品々が使いやすいように配置され、居心地よく過ごせるように工夫されている。		